

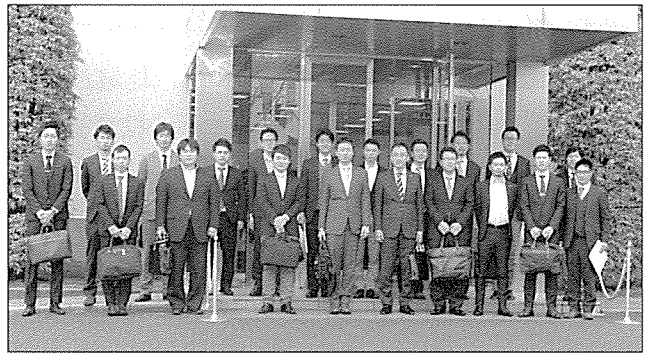
青年部

10月全体会議

三重リサイクルセンターと造幣局を見学

青年部（近藤大樹会長）10月全体会議は、10月20日（金）に三重中央開発（株）三重リサイクルセンター（三重県伊賀市）及び独立行政法人造幣局（大阪市北区）の視察研修会を開催しました。

当日は午前7時20分金山駅日本特殊陶業市民会館前に会員21名が集合し、最初の目的地である三重中央開発（株）三重リサイクルセンターへ向かいました。同センターは大栄環境グループの中核企業の一つとして開設され、総敷地面積50万㎡、一般廃棄物・産業廃棄物両方受け入れ可能であり、年々強化される廃棄物処理法や各種リサイクル法に対応可能な施設を誇っています。到着後、営業部工場グループ課長代理 辻本忠史氏、同グループリーダー 新中宏征氏より会議室において、多種多様な廃棄物に応じる最先端の資源循環システムの説明を受け、両氏の案内で管理型最終処分場を見学しました。処分場は平成27年3月に第7期管理型最終処分場が竣工し、従来の許可容量と合わせると約600万㎡以上となり国内最大規模です。埋立では処理した廃棄物だけを埋立てるのではなく、廃棄物の上に覆土してその上に廃棄物を積み重ねていく方法で埋立てて、最終的には丘になるとのことでした。処分場は地域住民の信頼と周辺環境を守ることを第一に運営されています。浸出水については水処理施設で処理され処理能力は500㎡/日、高速窒素除去システムを採用し、更に蒸発濃縮設備により焼却熱を利用し得られた蒸留水をプラント用水として社内循環することで排水のクロード化を実現しているとのこと。またコンポスト工場では、地元食品工場から排出される食品残渣等の有機性廃棄物を原料に有機肥料を製造し、農業組合法人「ねぎぼ〜ず」がその肥料を用いて、玉ねぎを生産・加工・出荷しています。資源循環システムの実現だけではなく地元雇用促進にも貢献しているとのこと。



再びバスに戻り、広大な敷地内にある破碎選別施設、RPF製造施設、汚泥固化施設、焙焼炉、バイオマスガス化施設、エネルギープラザ等、見学コースをバスで巡回し同センターの見学を終えました。

その後バスは大阪市に向かい、硬貨を製造している独立行政法人造幣局（大阪市北区）を目指しました。目的に到着後、造幣局の桜の通り抜けで有名な門をくぐり本局に入りました。本局の工場見学はガイドに誘導され、貨幣工場を見学しました。ガラス越しに、鉛・ニッケルなどの貨幣材料が硬貨に変わる工程（①溶解 ②熱間圧延 ③冷間圧延 ④圧搾 ⑤圧縁 ⑥洗浄 ⑦圧印・検査⑧計数・袋詰め）をガイドの説明を受けながらコースを進みました。他には高度な微細技術を用いた最先端の硬貨の偽造防止技術についても説明がありました。同施設内には造幣博物館もあり硬貨の歴史と展示物を見て回りました。

二か所の施設見学を終え会員はバスに乗り込み名古屋へ向かい午後8時に到着しました。

